



第36号
(発行所)
真宗大谷派
松岡山 廣讚寺
中村区城屋敷町3-30
TEL(052)411-5301
FAX(052)411-5341

阿弥陀経にてくる

高弟子第八番「難陀」

伊藤和美

高弟子八番目は「難陀」^{なんだ}であります。この人はお釈迦様の腹違いの異母弟にあたります。

お釈迦様が出家をお勧めになっても出家しません。それは難陀の奥さん、孫陀利^{そんだり}は美人であり心ひかれて出家できません。

お釈迦様はいろいろ手だてを考えられて、天上界に連れて行かれて美人の天女を見せても心は変わらず、妻恋いしさに変わらず、またある時は地獄に連れて行かれた。地獄の鬼が大きな鍋で湯をわかしていた。そこで難陀が

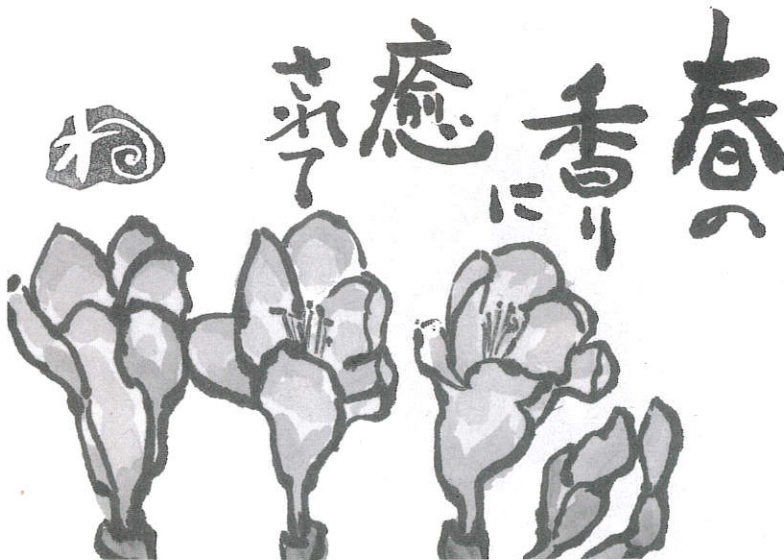
訳を聞くと、その鬼が次のように言った。

「難陀という人がいる。出家をせず墮落し、ここへ落ちてくる。それをこの鍋でゆでるんだ」

難陀はびっくりし震え上がりました。

それ以後、熱心に修行に励み悟りを開いた。

お釈迦様によく似ていたので、儀容第一といわれた。儀はたち居振る舞い。容はお姿が他の弟子より優れていたということだ。



住職童話

その日もお釈迦様は阿難をつれて説教に出かけられた。ガンジスの上でたちどまったお釈迦様は、次のようにおっしゃった。

「阿難よ、みてごらん。はるかかなたのヒマラヤの雪の一つ一つがとけて、この大ガンジスの流れになるんだよ。そしてインドの農民、いや全インド人を養っているんだよ。もとの一つぶ一つぶの氷は尊いものだよ」

阿難は一度そのヒマラヤの氷山まで行ってみたいと思った。氷と水とはどんな関係があるのかを知りたかった。親鸞さんの和讃にこんな一つがある。

罪障功德の体となる

こおりとみずのごとくにて

こおりとおおきにみずおおし

さわりおおきに徳おおし

氷山の一滴一滴が大河となる。個人の善意の一つ一つが光の世界をつくり、悪意の結合が世界戦争となり、社会不安となる。

私の毎日の説教は、人間に善意を戻すことのみですよ。



平成22年11月 本山報恩講団体参拝

歌十首 (十二月二十五日夜半)

愛欲の巷に七重八重の生きざまを

今すてはてて光の国に

文ちゃんよ今朝のみは死なないでいてくれよ

僕がそばにいないから

五階の五三五室の番号を

おぼえるだけの力となりぬ

妻の臨終みとどけんもの二夜をそえね

せしかど三夜はもたず

生と死を必死に斗う妻を思ひ

吾はこの夜を風呂に入る

青春の色はとつぷり色あせて

今永劫の苦をすてるかな

妻の生にエール送りたし今しばし

生きていてくれよ今のすこしを

御仏のいまする所はしらねども

お招き給うその道をゆけ

何の表情もなく吾が顔を

ながめてみたりわき見をしたり

アロホームから日赤へ更に仁愛病院へ

三度びの移動



行事予定

三月十二日(土) 七時 同朋委員会・総会

(役員は六時)

十九日(土) 二時～四時 学習会

〔春季彼岸永代経・蓮如講 執行〕

三月二十一日(祝) 十時 おつとめ・委員長報告

おとぎ 法話 前田健雄師

一時 おつとめ・法話

二十二日(火) 三時 おつとめ・法話

二十三日(水) 三時 おつとめ・法話

三月二十四日(木) 女人講・報恩講

十時 おつとめ・住職法話

おとぎ

一時 おつとめ・住職法話

二十八日(月) 二十八日講・総会

四月九日(土) 七時半 同朋委員会・例会

(役員は六時半)

十九日(火) 二時～四時 学習会

二十八日(木) 十時 二十八日講・女人講

